

統一的な基準による地方公会計

令和3年度（2021年度）決算版

## 朝霞市財務書類4表

（一般会計等財務書類・全体財務書類・連結財務書類）

貸借対照表

行政コスト計算書

純資産変動計算書

資金収支計算書



©むさしのフロントあさか

朝霞市総務部財政課



## 目 次

1. 統一的な基準による地方公会計について	
(1) 地方公会計制度の概要	1
(2) 朝霞市の取組	1
(3) 「統一的な基準」の特徴	1
(4) 財務書類の構成	2
2. 朝霞市の財務書類について	
(1) 対象となる範囲	3
(2) 作成基準日	3
(3) 仕訳の方法	3
(4) 一般会計等財務書類	
<貸借対照表>	4
<行政コスト計算書>	8
<純資産変動計算書>	12
<資金収支計算書>	14
(5) 全体財務書類	
<全体貸借対照表>	17
<全体行政コスト計算書>	18
<全体純資産変動計算書>	19
<全体資金収支計算書>	20
(6) 連結財務書類	
<連結貸借対照表>	21
<連結行政コスト計算書>	22
<連結純資産変動計算書>	23
<連結資金収支計算書>	24
一般会計等財務書類に係る注記	25

## 1. 統一的な基準による地方公会計について

### (1) 地方公会計制度の概要

地方公会計制度は、国・地方を通じた厳しい財政状況の中で、財政の透明性を高め、国民・住民に対する説明責任をより適切に果たし、財政の効率化・適正化を図るため、地方公共団体における予算・決算に係る会計制度を補完するものとして、企業会計の考え方や手法を活用するという考えのもと、地方公共団体版の財務書類等を開示することにより推進されてきました。

平成18年には、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」が策定され、地方公共団体が財務書類を公表する形式として、地方財政状況調査（決算統計）データの読替えにより作成する「総務省方式改訂モデル」などが示されました。

このような中、平成26年5月には、総務省から、発生主義・複式簿記の導入、固定資産台帳の整備、比較可能性の確保を柱とした、「統一的な基準による地方公会計」の整備方針が示されました。また、平成27年1月には、全ての地方公共団体に対し、「統一的な基準」による財務書類等について、平成29年度までに作成することが要請されたところです。

#### ※地方財政状況調査（決算統計）とは

地方自治法第252条の17の5第1項及び第2項の規定に基づいて毎年行われるもので、予算の執行を通じて地方公共団体がどのように行政運営を行ったかを見るための基礎となるものであり、地方財政全体の毎年度の執行結果を表すものとして、地方財政関係統計のなかでも最も基本的かつ重要な統計調査です。

### (2) 朝霞市の取組

朝霞市では、平成20年度決算から平成27年度決算まで、「総務省方式改訂モデル」の財務書類4表を公表してきましたが、総務省の要請を受けて、平成28年度から「統一的な基準」による財務書類を作成し、公表しています。

### (3) 「統一的な基準」の特徴

#### ○ 発生主義・複式簿記の採用

地方公共団体における予算・決算に係る会計制度は、現金収支を議会の民主的統制下に置くことで、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、確定性、客観性、透明性に優れた単式簿記による現金主義会計を採用しています。

「統一的な基準」では、この現行の会計制度を補完する目的で、企業会計が行っている発生主義・複式簿記を取り入れることにより、資産や負債の総体が一覧的に把握可能になるとともに、減価償却費や退職手当引当金など現金支出を伴わないコスト情報を可視化することができます。

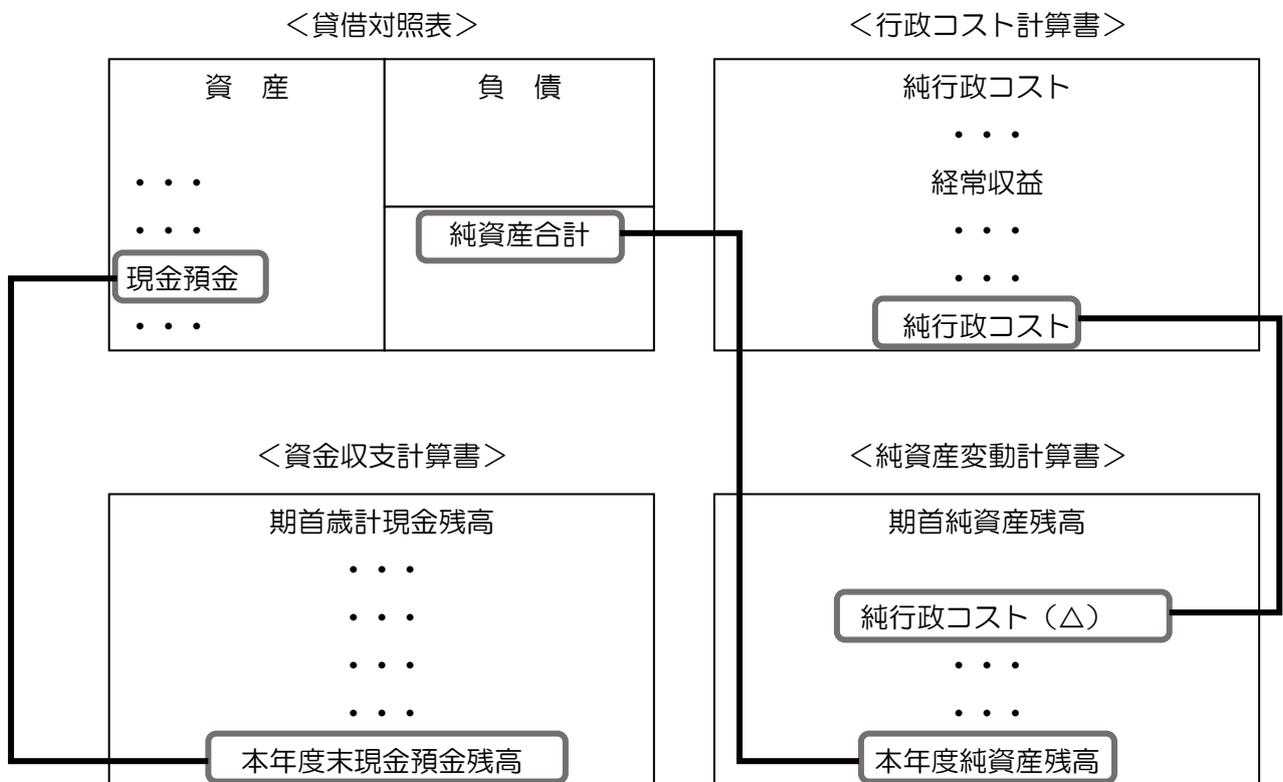
具体的には、現行の会計制度のもとでは、予算科目単位での現金の歳入・歳出に関する伝票しか存在しませんが、「統一的な基準」では、資金仕訳変換表に基づき、この歳入・歳出伝票についてそれぞれ仕訳を行うとともに、現金を伴わない取引等について、別途仕訳伝票を作成します。

○ 固定資産台帳の整備

これまで、地方公共団体の財産については、公有財産台帳等により、数量等について現物管理をしてきましたが、「統一的な基準」では、資産ごとに評価を行ったうえで帳簿上の価額を設定します。また、資産に関して異動が生じた場合には、複式簿記により、金額の異動情報についても併せて記録するとともに、減価償却を行っていくことで、公共施設等の老朽化の状況などを把握することができ、中長期的な公共施設マネジメントに活用することができます。

(4) 財務書類の構成

財務書類は4つの表から構成されており、下記のように相互が関連し合っています。



- 貸借対照表 : 基準日時点における財政状態を表示したもの。
- 行政コスト計算書 : 一会計期間中の費用・収益の取引高を表示したもの。  
(企業会計の損益計算書にあたる。)  
→現金収支を伴わない減価償却費等も費用として計上。
- 純資産変動計算書 : 一会計期間中の純資産の変動を表示したもの。  
(企業会計の株主資本等変動計算書にあたる。)
- 資金収支計算書 : 一会計期間中の現金の受払いを3つの区分で表示したもの。

## 2. 朝霞市の財務書類について

### (1) 対象となる範囲

一般会計等：

- 一般会計  
(朝霞市では一般会計のみが対象です。)

全体会計：

- 一般会計等
- 国民健康保険特別会計
- 介護保険特別会計
- 後期高齢者医療特別会計
- 水道事業会計
- 下水道事業会計

連結会計：

- 全体会計
- 朝霞地区一部事務組合
- 埼玉県市町村総合事務組合
- 埼玉県都市競艇組合
- 朝霞和光資源循環組合
- 彩の国さいたま人づくり広域連合
- 埼玉県後期高齢者医療広域連合
- 朝霞市土地開発公社
- 公益財団法人朝霞市文化・スポーツ振興公社
- 社会福祉法人朝霞地区福祉会

### (2) 作成基準日

作成基準日は、各会計年度の最終日である3月31日としています。

なお、出納整理期間における収支については、作成基準日までに終了したものとして処理しています。

※出納整理期間とは

会計年度末(3月31日)までに確定した債権債務について所定の手続きを完了し、現金の未収未払の整理を行うための期間で、会計年度終了後の4月1日から5月31日までの2か月間を指しています。

### (3) 仕訳の方法

全ての歳入・歳出伝票を、年度末に一括で仕訳処理する期末一括仕訳方式を採用しています。

## (4) 一般会計等財務書類

## &lt;貸借対照表&gt;

## 貸借対照表

令和 4年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	119,958,161,801	固定負債	23,760,524,014
有形固定資産	115,518,895,677	地方債	23,019,620,831
事業用資産	75,635,086,635	長期未払金	376,629,997
土地	46,352,375,815	退職手当引当金	364,273,186
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	61,493,858,938	その他	-
建物減価償却累計額	△ 32,759,156,030	流動負債	4,018,343,224
工作物	857,955,443	1年内償還予定地方債	3,015,888,012
工作物減価償却累計額	△ 329,531,931	未払金	181,300,181
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	501,761,214
航空機	-	預り金	319,393,817
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	27,778,867,238
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	19,584,400	固定資産等形成分	122,670,877,302
インフラ資産	39,833,909,116	余剰分(不足分)	△ 24,294,677,317
土地	37,127,998,877		
建物	559,445,201		
建物減価償却累計額	△ 321,863,134		
工作物	38,171,456,162		
工作物減価償却累計額	△ 35,703,127,990		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	522,061,944		
物品減価償却累計額	△ 472,162,018		
無形固定資産	1,272,145		
ソフトウェア	1,271,840		
その他	305		
投資その他の資産	4,437,993,979		
投資及び出資金	251,827,000		
有価証券	-		
出資金	251,827,000		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	408,459,507		
長期貸付金	36,252,300		
基金	3,797,536,340		
減債基金	-		
その他	3,797,536,340		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 56,081,168		
流動資産	6,196,905,422		
現金預金	3,258,964,118		
未収金	229,952,897		
短期貸付金	12,642,000		
基金	2,700,073,501		
財政調整基金	2,700,073,501		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 4,727,094		
資産合計	126,155,067,223	純資産合計	98,376,199,985
		負債及び純資産合計	126,155,067,223

- 貸借対照表はバランスシートともいい、基準日時点における市の財政状態を明らかにすることを目的としており、資産、負債及び純資産から構成されています。
- 貸借対照表の左側を借方、右側を貸方といいます。
- 借方には資産が表示され、これからの世代に残る財産状況、これまで投資された資金の用途の状況などを確認することができます。
- 貸方には負債及び純資産が表示され、これからの世代が負担しなければならない借入金状況や、これまでの世代が負担した資金状況などを確認することができます。  
つまり、貸借対照表を作成することにより、これまでに整備してきた社会資本の状況と、その整備に投資した資金の状況等を一覧で確認することができます。

#### 〔資産の部〕

- 事業用資産は、インフラ資産及び物品以外の有形固定資産をいいます。具体的には、庁舎や保育園、公民館などの施設に係る土地や建物などです。
- インフラ資産は、道路や橋梁、公園などの施設に係る土地や建物などです。
- 事業用資産の工作物には、広報掲示板や防災行政無線などを、インフラ資産の工作物には、道路舗装や橋梁などを計上しています。
- 建設仮勘定とは、複数年にわたって実施している工事で、その年度までに支出した工事費などを仮に集計したものです。事業用資産の建設仮勘定には、中学校施設改修事業や内間木公民館空調設備改修事業などを計上しています。
- 減価償却については、毎年度、一定額を減らしていく定額法により算出しています。なお、建物、工作物、物品については減価償却累計額を表示していますが、無形固定資産のソフトウェアについては、減価償却累計額をあらかじめ控除して表示しています。
- 物品には、市庁舎や学校における備品など、1台が50万円以上の物品を資産として計上しています。

- 出資金は、市が公有財産として管理している出資等をいいます。なお、主な出資先は、公益財団法人朝霞市文化・スポーツ振興公社や社会福祉法人朝霞地区福祉会などです。
- 長期延滞債権は、市税などの滞納繰越分のうち、当該年度収入未済分の合計額を計上しています。
- 長期貸付金及び短期貸付金は、市で貸付を行っている入学準備金貸付金、奨学金貸付金の年度末残高のうち、短期貸付金は、翌年度に償還が予定されている分で、長期貸付金は、翌々年度以降に償還が予定されている分を計上しています。
- 固定資産における基金には、財政調整基金以外の基金の年度末残高を計上しています。
- 徴収不能引当金は、企業会計の貸倒引当金にあたるもので、市税などの歳入について、過去5年間の不納欠損の状況から不納欠損率を算出し、長期延滞債権や未収金の残高に乗じることによって、徴収不能引当金を計上しています。
- 現金預金は、基準日時点において市が保有している現金です。資金収支計算書の本年度末現金預金残高と一致します。
- 未収金は、市税などで、当該年度に収入の見込みを立てたもののうち、収入未済分の合計額を計上しています。
- 財政調整基金は、年度末残高を計上しています。

〔負債の部〕

- 地方債及び1年内償還予定地方債は、市が過去に借入れを行った市債の年度末残高を表しています。1年内償還予定地方債には、翌年度に償還が予定されている分を計上し、地方債には、それ以外の分を計上しています。
- 長期末払金及び未払金は、市が債務負担行為として設定している事業のうち確定債務と見なされるものなどを計上しています。具体的には、朝霞駅東口周辺地区整備費負担事業や、市内循環バス運行事業における損失補償などです。未払金には、翌年度に支払いが予定されている分を計上し、長期末払金にはそれ以外の分を計上しています。

- 退職手当引当金は、年度末に在籍している全職員が自己都合退職したと想定した場合に支給する退職手当額を計上しています。
- 賞与等引当金は、基準日時点までの期間に対応する期末手当・勤勉手当及び法定福利費を計上しています。
- 預り金には、市が一時的に保有している現金を計上しています。

〔純資産の部〕

- 純資産の部では、固定資産等形成分が純資産額を超えており、余剰分（不足分）はマイナスとなっています。これは、固定資産等の形成にあたり、これまでの税金や国県補助金等だけではまかないきれず、地方債など将来の負担に頼っていることを意味しています。

<行政コスト計算書>

## 行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
経常費用	45,445,917,267
業務費用	20,339,146,371
人件費	7,259,945,283
職員給与費	5,675,757,751
賞与等引当金繰入額	501,761,214
退職手当引当金繰入額	130,434,515
その他	951,991,803
物件費等	12,315,899,062
物件費	10,044,381,583
維持補修費	433,008,022
減価償却費	1,838,509,457
その他	-
その他の業務費用	763,302,026
支払利息	130,842,001
徴収不能引当金繰入額	60,808,262
その他	571,651,763
移転費用	25,106,770,896
補助金等	15,288,254,793
社会保障給付	7,551,414,985
他会計への繰出金	2,168,130,297
その他	98,970,821
経常収益	2,178,830,007
使用料及び手数料	681,192,504
その他	1,497,637,503
純経常行政コスト	43,267,087,260
臨時損失	2,108,972
災害復旧事業費	-
資産除売却損	2,108,972
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	460,000
資産売却益	460,000
その他	-
純行政コスト	43,268,736,232

- 行政コスト計算書は、社会保障給付やそのサービスを提供するための人件費など、資産形成につながらない当該年度の行政サービスの提供のために使われた費用と収入を対比したものです。どのようなサービスにどれだけのコストがかかっているかなど、行政コストの内容自体の分析を目的としています。
- 費用には、賞与等引当金繰入額や減価償却費など、発生主義に基づくコストが含まれています。
- 経常費用は、毎会計年度、経常的に発生する行政サービスを提供するために要した経費です。
- 職員給与費は、職員の給料や手当などを計上しています。
- 賞与等引当金繰入額は、本年度、新たに算出した賞与等引当金を計上しています。
- 退職手当引当金繰入額は、貸借対照表における退職手当引当金が不足する場合に計上します。
- 人件費のその他は、審議会の委員や会計年度任用職員に対する報酬を計上しています。
- 物件費は、委託料や備品購入費、光熱水費などを計上しています。
- 維持補修費は、建物の修繕に係る経費などを計上しています。
- 減価償却費は、土地、建設仮勘定以外の有形固定資産及びソフトウェアについて、耐用年数に応じて下がった価値を差し引く処理を行うため、資産価値の減少額を計上しています。
- 物件費等のその他は、市主催事業の保険料に係る経費などを計上しています。
- 支払利息は、地方債の利子を計上しています。
- 徴収不能引当金繰入額は、徴収不能引当金の本年度発生額を計上しています。
- その他の業務費用のその他は、市税の還付金や、国県支出金の返還金などを計上しています。

- 補助金等は、関係団体への補助金や、他団体が行う建設事業に対する負担金などを計上しています。
- 社会保障給付は、生活保護費や医療などに係る支出を計上しています。
- 他会計への繰出金は、国民健康保険特別会計などへの支出を計上しています。
- 移転費用のその他は、融資制度損失補償金や市内循環バス運行事業に伴う補償料などを計上しています。
- 経常収益は、毎会計年度、経常的に発生する、施設使用料など行政サービスの対価としての収益です。
- 使用料及び手数料は、施設の使用料や、住民票の交付手数料などを計上しています。
- 経常収益のその他は、財産運用収入や給食費受入金などを計上しています。
- 純経常行政コストは、経常収益と経常費用との差額を表しています。
- 臨時損失は、臨時に発生する費用をいいます。
- 災害復旧事業費は、災害復旧に関する費用をいいます。
- 資産除売却損は、除却した資産の除却時の帳簿価額及び資産を売却した場合に得た収入が帳簿価額を下回る場合の差額です。
- 投資損失引当金繰入額は、投資損失引当金の当該会計年度発生額をいいます。
- 損失補償等引当金繰入額は、損失補償等引当金の当該年度発生額をいいます。
- 臨時利益は、臨時に発生する収益をいいます。
- 資産売却益は、資産の売却による収入が帳簿価額を上回る場合の差額です。

- 行政コスト計算書の収支尻である純行政コストは、市税や地方交付税、国や県の支出金で賄われることとなります。（次頁〈純資産変動計算書〉を参照。）

<純資産変動計算書>

純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	合計	固定資産等形成分	
		固定資産等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	95,086,051,772	122,213,298,979	△ 27,127,247,207
純行政コスト (△)	△ 43,268,736,232		△ 43,268,736,232
財源	46,345,675,221		46,345,675,221
税金等	28,949,300,272		28,949,300,272
国県等補助金	17,396,374,949		17,396,374,949
本年度差額	3,076,938,989		3,076,938,989
固定資産の変動 (内部変動)		254,193,917	△ 254,193,917
有形固定資産等の増加		1,753,148,395	△ 1,753,148,395
有形固定資産等の減少		△ 1,841,586,919	1,841,586,919
貸付金・基金等の増加		2,686,550,705	△ 2,686,550,705
貸付金・基金等の減少		△ 2,343,918,264	2,343,918,264
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	48,860,460	48,860,460	
その他	164,348,764	154,523,946	9,824,818
本年度純資産変動額	3,290,148,213	457,578,323	2,832,569,890
本年度末純資産残高	98,376,199,985	122,670,877,302	△ 24,294,677,317

- 純資産変動計算書は、1年間で、これまでの世代が調達してきたものが増えたのか減ったのかを表したものであり、貸借対照表の資産と負債の差額である「純資産の部」に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかがわかります。
- 純行政コスト（△）は、行政コスト計算書の収支尻が反映されています。
- 税収等は、市税や地方交付税、地方消費税交付金などを計上しています。
- 国県等補助金は、国、県からの負担金、補助金、委託金を計上しています。
- 本年度差額は、財源と純行政コストとの差額を表しています。
- 有形固定資産等の増加は、有形固定資産や無形固定資産の形成による保有資産の増加額などをいいます。
- 有形固定資産等の減少は、有形固定資産や無形固定資産の減価償却や除却による減少額などをいいます。
- 貸付金・基金等の増加は、貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額などをいいます。
- 貸付金・基金等の減少は、貸付金の償還収入や基金の取崩し収入による減少額などをいいます。
- 資産評価差額は、有価証券等の評価差額をいいます。
- 無償所管換等は、無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等をいいます。
- 固定資産等形成分は、資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、貸借対照表の固定資産、流動資産の短期貸付金、基金等の金額を合算した金額となっています。
- 余剰分（不足分）は、費消可能な資源の蓄積をいい、金銭の形態で保有しているものです。
- 本年度末純資産残高は、貸借対照表の純資産合計と一致します。

<資金収支計算書>

資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	43,724,181,488
業務費用支出	18,290,096,222
人件費支出	7,134,883,763
物件費等支出	10,477,389,605
支払利息支出	130,842,001
その他の支出	546,980,853
移転費用支出	25,434,085,266
補助金等支出	15,528,023,119
社会保障給付支出	7,551,414,985
他会計への繰出支出	2,168,130,297
その他の支出	186,516,865
業務収入	48,265,664,270
税込等収入	28,975,149,743
国県等補助金収入	17,179,265,949
使用料及び手数料収入	681,612,504
その他の収入	1,429,636,074
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	4,541,482,782
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	3,980,099,201
公共施設等整備費支出	1,753,148,395
基金積立金支出	2,180,775,806
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	46,175,000
その他の支出	-
投資活動収入	2,040,439,388
国県等補助金収入	217,109,000
基金取崩収入	1,763,450,000
貸付金元金回収収入	48,627,080
資産売却収入	11,253,308
その他の収入	-
投資活動収支	△ 1,939,659,813
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,034,426,413
地方債償還支出	3,034,426,413
その他の支出	-
財務活動収入	2,358,136,000
地方債発行収入	2,358,136,000
その他の収入	-
財務活動収支	△ 676,290,413
本年度資金収支額	1,925,532,556
前年度末資金残高	1,014,037,745
本年度末資金残高	2,939,570,301
前年度末歳計外現金残高	309,869,735
本年度歳計外現金増減額	9,524,082
本年度末歳計外現金残高	319,393,817
本年度末現金預金残高	3,258,964,118

- 資金収支計算書は、一会計年度における資金の増減を示したものです。行政活動を金銭の流れから見たもので、年度当初と年度末の資金の増減内訳を表しています。
- 業務活動収支は、日常の行政サービスの提供のために使われた支出と収入を表しています。
- 人件費支出は、職員の給料や手当、審議会の委員報酬などを計上しています。
- 物件費等支出は、委託料や備品購入費、建物の修繕料などを計上しています。
- 支払利息支出は、地方債の利子を計上しています。
- 業務費用支出のその他の支出は、市税の還付金や、国・県支出金の返還金などを計上しています。
- 補助金等支出は、関係団体への補助金や、他団体が行う建設事業に対する負担金などを計上しています。
- 社会保障給付支出は、生活保護費や医療などに係る支出を計上しています。
- 他会計への繰出支出は、国民健康保険特別会計などへの支出を計上しています。
- 移転費用支出のその他の支出は、市内循環バス運行事業に伴う補償料などを計上しています。
- 税収等収入は、市税や地方交付税、地方消費税交付金などを計上しています。
- 業務収入の国県等補助金収入は、国、県からの負担金、補助金、委託金のうち、投資活動収入の国県等補助金収入を除いた分を計上しています。
- 使用料及び手数料収入は、施設の使用料や、住民票の交付手数料などを計上しています。
- 業務収入のその他の収入は、財産運用収入や給食費受入金などを計上しています。
- 災害復旧事業費支出は、災害復旧事業費に係る支出をいいます。
- 臨時収入は、臨時にあった収入をいいます。

- 投資活動収支は、公共施設など固定資産の資産形成につながる支出とその財源となる収入、また、基金への積立支出と取崩収入などです。
- 公共施設等整備費支出は、有形固定資産等の形成に係る支出をいいます。本年度は、図書館本館改修工事や中学校体育館空調設備改修工事などを計上しています。
- 基金積立金支出は、財政調整基金などの基金への積立金を計上しています。
- 投資及び出資金支出は、投資及び出資金に係る支出をいいます。
- 貸付金支出は、入学準備金貸付金や奨学金貸付金などを計上しています。
- 投資活動収入の国県等補助金収入は、公共施設等整備費支出に充当した国、県からの補助金を計上しています。
- 基金取崩収入は、財政調整基金などの基金からの繰入金を計上しています。
- 貸付金元金回収収入は、入学準備金貸付金や奨学金貸付金などの元金回収収入を計上しています。
- 財務活動収支は、地方債に係る収入と支出を表しています。
- 地方債償還支出は、地方債の元金を計上しています。
- 地方債発行収入は、市が本年度に借入れを行った市債を計上しています。
- 業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支の合計が本年度資金収支額となり、前年度末資金残高にこれを加味することで本年度末資金残高となります。
- 本年度末資金残高に、本年度末歳計外現金残高を合算した額が、本年度末現金預金残高となります。
- 資金収支計算書の収支尻である本年度末現金預金残高は、貸借対照表の現金預金と一致します。また、歳入歳出決算における歳入歳出差引残額とも一致します。

## (5) 全体財務書類

一般会計等に、特別会計や企業会計を加えた市全体の全体財務書類です。

<全体貸借対照表>

**全体貸借対照表**  
(令和 4 年 3 月 3 1 日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	155,089,673,518	固定負債	45,388,657,994
有形固定資産	148,438,210,870	地方債等	30,359,127,782
事業用資産	75,635,086,635	長期未払金	376,629,997
土地	46,352,375,815	退職手当引当金	364,273,186
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	61,493,858,938	その他	14,288,627,029
建物減価償却累計額	△ 32,759,156,030	流動負債	4,949,132,399
工作物	857,955,443	1年内償還予定地方債等	3,707,028,039
工作物減価償却累計額	△ 329,531,931	未払金	290,865,180
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	526,375,214
航空機	-	預り金	424,863,966
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	50,337,790,393
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	19,584,400	固定資産等形成分	158,306,047,858
インフラ資産	70,504,074,613	余剰分(不足分)	△ 43,059,640,767
土地	40,252,192,034		
建物	2,393,419,888		
建物減価償却累計額	△ 1,059,812,379		
工作物	72,118,090,659		
工作物減価償却累計額	△ 43,702,320,387		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	502,504,798		
物品	5,579,666,345		
物品減価償却累計額	△ 3,280,616,723		
無形固定資産	1,764,893,176		
ソフトウェア	1,271,840		
その他	1,763,621,336		
投資その他の資産	4,886,569,472		
投資及び出資金	116,662,000		
有価証券	-		
出資金	116,662,000		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	747,208,552		
長期貸付金	36,252,300		
基金	4,120,283,080		
減債基金	-		
その他	4,120,283,080		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 133,836,460		
流動資産	10,494,523,966		
現金預金	6,375,761,858		
未収金	891,494,709		
短期貸付金	12,642,000		
基金	3,203,732,340		
財政調整基金	3,203,732,340		
減債基金	-		
棚卸資産	14,505,479		
その他	5,005,970		
徴収不能引当金	△ 8,618,390		
繰延資産	-		
資産合計	165,584,197,484	純資産合計	115,246,407,091
		負債及び純資産合計	165,584,197,484

<全体行政コスト計算書>

## 全体行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
経常費用	66,781,643,553
業務費用	24,920,607,116
人件費	7,521,988,195
職員給与費	5,870,723,201
賞与等引当金繰入額	521,145,214
退職手当引当金繰入額	130,434,515
その他	999,685,265
物件費等	16,063,980,833
物件費	12,310,181,450
維持補修費	528,741,693
減価償却費	3,218,107,219
その他	6,950,471
その他の業務費用	1,334,638,088
支払利息	228,397,692
徴収不能引当金繰入額	137,781,313
その他	968,459,083
移転費用	41,861,036,437
補助金等	34,209,414,631
社会保障給付	7,552,650,985
その他	98,970,821
経常収益	5,089,336,101
使用料及び手数料	3,407,489,170
その他	1,681,846,931
純経常行政コスト	61,692,307,452
臨時損失	23,919,599
災害復旧事業費	-
資産除売却損	2,108,972
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	21,810,627
臨時利益	480,290,982
資産売却益	460,000
その他	479,830,982
純行政コスト	61,235,936,069

<全体純資産変動計算書>

### 全体純資産変動計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	合計	余剰分 (不足分)	
		固定資産等形成分	
前年度末純資産残高	111,000,253,047	157,780,724,900	△ 46,780,471,853
純行政コスト(△)	△ 61,235,936,069		△ 61,235,936,069
財源	65,268,880,889		65,268,880,889
税金等	37,525,296,017		37,525,296,017
国県等補助金	27,743,584,872		27,743,584,872
本年度差額	4,032,944,820		4,032,944,820
固定資産の変動(内部変動)		321,938,552	△ 321,938,552
有形固定資産等の増加		2,439,020,278	△ 2,439,020,278
有形固定資産等の減少		△ 2,655,816,068	2,655,816,068
貸付金・基金等の増加		3,630,564,019	△ 3,630,564,019
貸付金・基金等の減少		△ 3,091,829,677	3,091,829,677
資産評価差額	-	-	
無償所管換等	48,860,460	48,860,460	
その他	164,348,764	154,523,946	9,824,818
本年度純資産変動額	4,246,154,044	525,322,958	3,720,831,086
本年度末純資産残高	115,246,407,091	158,306,047,858	△ 43,059,640,767

<全体資金収支計算書>

## 全体資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	63,418,949,112
業務費用支出	21,230,598,305
人件費支出	7,397,880,675
物件費等支出	12,825,214,077
支払利息支出	228,397,692
その他の支出	779,105,861
移転費用支出	42,188,350,807
補助金等支出	34,449,182,957
社会保障給付支出	7,552,650,985
その他の支出	186,516,865
業務収入	69,656,957,305
税金等収入	36,796,616,012
国県等補助金収入	27,389,977,678
使用料及び手数料収入	3,404,783,243
その他の収入	2,065,580,372
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
<b>業務活動収支</b>	<b>6,238,008,193</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	5,571,248,228
公共施設等整備費支出	2,780,148,627
基金積立金支出	2,715,085,267
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	46,175,000
その他の支出	29,839,334
投資活動収入	2,646,407,493
国県等補助金収入	522,914,300
基金取崩収入	1,986,048,100
貸付金元金回収収入	48,627,080
資産売却収入	11,253,308
その他の収入	77,564,705
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 2,924,840,735</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,740,315,826
地方債等償還支出	3,740,315,826
その他の支出	-
財務活動収入	2,795,736,000
地方債等発行収入	2,795,736,000
その他の収入	-
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 944,579,826</b>
本年度資金収支額	2,368,587,632
前年度末資金残高	3,687,780,409
本年度末資金残高	6,056,368,041
前年度末歳計外現金残高	309,869,735
本年度歳計外現金増減額	9,524,082
本年度末歳計外現金残高	319,393,817
本年度末現金預金残高	6,375,761,858

## (6) 連結財務書類

全体会計に、一部事務組合や出資法人などの外郭団体を加えた連結財務書類です。

<連結貸借対照表>

**連結貸借対照表**  
(令和 4年 3月 31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	162,695,485,008	固定負債	51,263,464,757
有形固定資産	150,283,777,554	地方債等	30,672,602,960
事業用資産	77,009,023,782	長期未払金	376,629,997
土地	47,195,787,193	退職手当引当金	5,895,075,351
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	62,455,918,536	その他	14,319,156,449
建物減価償却累計額	△ 33,267,007,660	流動負債	5,261,135,889
工作物	994,801,430	1年内償還予定地方債等	3,751,393,834
工作物減価償却累計額	△ 390,356,700	未払金	425,700,514
船舶	1,186,332	未払費用	-
船舶減価償却累計額	△ 889,749	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	623,194,488
航空機	-	預り金	444,584,923
航空機減価償却累計額	-	その他	16,262,130
その他	-	<b>負債合計</b>	<b>56,524,600,646</b>
その他減価償却累計額	-	<b>【純資産の部】</b>	
建設仮勘定	19,584,400	固定資産等形成分	165,920,172,135
インフラ資産	70,504,074,613	余剰分(不足分)	△ 47,886,020,380
土地	40,252,192,034	他団体外資等分	△ 44,268,753
建物	2,393,419,888		
建物減価償却累計額	△ 1,059,812,379		
工作物	72,118,090,659		
工作物減価償却累計額	△ 43,702,320,387		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	502,504,798		
物品	6,753,048,463		
物品減価償却累計額	△ 3,982,369,304		
無形固定資産	1,777,398,174		
ソフトウェア	13,391,520		
その他	1,764,006,654		
投資その他の資産	10,634,309,280		
投資及び出資金	11,262,000		
有価証券	-		
出資金	11,262,000		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	747,208,552		
長期貸付金	36,252,300		
基金	9,973,422,888		
減債基金	-		
その他	9,973,422,888		
その他	-		
徴収不能引当金	△ 133,836,460		
流動資産	11,818,998,640		
現金預金	7,631,295,064		
未収金	944,832,881		
短期貸付金	12,642,000		
基金	3,212,045,127		
財政調整基金	3,212,045,127		
減債基金	-		
棚卸資産	14,505,479		
その他	12,324,832		
徴収不能引当金	△ 8,646,743		
繰延資産	-		
<b>資産合計</b>	<b>174,514,483,648</b>	<b>純資産合計</b>	<b>117,989,883,002</b>
		<b>負債及び純資産合計</b>	<b>174,514,483,648</b>

<連結行政コスト計算書>

## 連結行政コスト計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
経常費用	81,041,772,837
業務費用	29,778,723,353
人件費	9,293,335,245
職員給与費	7,517,394,281
賞与等引当金繰入額	605,731,090
退職手当引当金繰入額	158,966,303
その他	1,011,243,571
物件費等	18,896,952,241
物件費	14,975,880,970
維持補修費	575,918,872
減価償却費	3,338,180,928
その他	6,971,471
その他の業務費用	1,588,435,867
支払利息	229,284,247
徴収不能引当金繰入額	137,781,313
その他	1,221,370,307
移転費用	51,263,049,484
補助金等	31,890,547,841
社会保障給付	19,271,690,073
その他	100,811,570
経常収益	8,262,271,281
使用料及び手数料	3,495,929,840
その他	4,766,341,441
純経常行政コスト	72,779,501,556
臨時損失	26,397,981
災害復旧事業費	-
資産除売却損	4,587,354
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	21,810,627
臨時利益	482,050,982
資産売却益	460,000
その他	481,590,982
純行政コスト	72,323,848,555

<連結純資産変動計算書>

連結純資産変動計算書

自 令和 3 年 4 月 1 日  
至 令和 4 年 3 月 3 1 日

(単位：円)

科 目	合計	固定資産等形成分		
		固定資産等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	113,729,376,714	164,800,849,929	△ 51,028,288,052	△ 43,185,163
純行政コスト(△)	△ 72,323,848,555		△ 72,323,848,555	-
財源	76,371,671,387		76,371,671,387	-
税金等	44,628,717,269		44,628,717,269	-
国県等補助金	31,742,954,118		31,742,954,118	-
本年度差額	4,047,822,832		4,047,822,832	-
固定資産の変動(内部変動)		905,287,253	△ 905,287,253	
有形固定資産等の増加		2,878,185,522	△ 2,878,185,522	
有形固定資産等の減少		△ 2,780,638,671	2,780,638,671	
貸付金・基金等の増加		4,041,475,721	△ 4,041,475,721	
貸付金・基金等の減少		△ 3,233,735,319	3,233,735,319	
資産評価差額	-	-		
無償所管換等	49,418,282	49,418,282		
他団体出資等分の増加	-			-
他団体出資等分の減少	-			-
比例連結割合変更に伴う差額	△ 1,083,590			△ 1,083,590
その他	164,348,764	164,616,671	△ 267,907	
本年度純資産変動額	4,260,506,288	1,119,322,206	3,142,267,672	△ 1,083,590
本年度末純資産残高	117,989,883,002	165,920,172,135	△ 47,886,020,380	△ 44,268,753

<連結資金収支計算書>

## 連結資金収支計算書

自 令和 3年 4月 1日  
至 令和 4年 3月 31日

(単位：円)

科 目	金 額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	77,506,682,216
業務費用支出	25,916,292,276
人件費支出	9,145,694,513
物件費等支出	15,517,903,973
支払利息支出	229,284,247
その他の支出	1,023,409,543
移転費用支出	51,590,389,940
補助金等支出	32,130,342,253
社会保障給付支出	19,271,690,073
その他の支出	188,357,614
業務収入	83,864,779,125
税収等収入	43,900,037,264
国県等補助金収入	31,336,024,234
使用料及び手数料収入	3,493,223,913
その他の収入	5,135,493,714
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	1,760,000
業務活動収支	6,359,856,909
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	6,138,885,205
公共施設等整備費支出	3,193,793,067
基金積立金支出	2,869,077,804
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	46,175,000
その他の支出	29,839,334
投資活動収入	2,840,382,479
国県等補助金収入	570,808,377
基金取崩収入	2,128,265,956
貸付金元金回収収入	48,627,080
資産売却収入	11,253,308
その他の収入	81,427,758
投資活動収支	△ 3,298,502,726
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,783,092,053
地方債等償還支出	3,768,087,204
その他の支出	15,004,849
財務活動収入	3,063,362,750
地方債等発行収入	3,063,362,750
その他の収入	-
財務活動収支	△ 719,729,303
本年度資金収支額	2,341,624,880
前年度末資金残高	4,968,501,588
比例連結割合変更に伴う差額	△ 4,888,884
本年度末資金残高	7,305,237,584
前年度末歳計外現金残高	316,401,417
本年度歳計外現金増減額	9,656,063
本年度末歳計外現金残高	326,057,480
本年度末現金預金残高	7,631,295,064

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産等の評価基準及び評価方法

- ① 有形固定資産・・・・・・・・・・取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・・・・・再調達原価  
ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
  - イ 昭和60年度以後に取得したもの  
取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価  
取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価  
ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
- ② 無形固定資産・・・・・・・・・・取得原価  
ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
  - 取得原価が判明しているもの・・・・・・・・取得原価
  - 取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

(2) 有価証券等の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的有価証券・・・・・・・・保有していないため省略
- ② 満期保有目的以外の有価証券
  - ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・保有していないため省略
  - イ 市場価格のないもの・・・・・・・・保有していないため省略
- ③ 出資金
  - ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・保有していないため省略
  - イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

(3) 有形固定資産等の減価償却の方法

- ① 有形固定資産・・・・・・・・定額法  
なお、主な耐用年数は以下のとおりです。
  - 建物 15年～50年
  - 工作物 8年～60年
  - 物品 3年～20年
- ② 無形固定資産・・・・・・・・定額法  
(ソフトウェアについては、朝霞市における見込利用期間(5年)に基づく定額法によ  
っています。)

#### (4) 引当金の計上基準及び算定方法

##### ① 徴収不能引当金

長期延滞債権及び未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

##### ② 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。なお、朝霞市は退職手当組合に加入しているため、退職手当債務から組合への加入時以降の負担金の累計額から既に職員に対し退職手当として支給された額の総額を控除した額に、組合における積立金額の運用益のうち朝霞市へ按分される額を加算した額を控除した額を計上しています。

##### ③ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

#### (5) 資金収支計算書における資金の範囲

地方自治法第235条の4第1項に規定する歳入歳出に属する現金としています。

#### (6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

##### ① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価格が50万円（美術品は300万円）以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

##### ② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が50万円未満であるときに修繕費として処理しています。

#### 2. 重要な会計方針の変更等

該当ありません。

#### 3. 重要な後発事象

該当ありません。

#### 4. 偶発債務

該当ありません。

#### 5. 追加情報

##### (1) 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間（4月1日～5月31日）が設けられており、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 地方公共団体財政健全化法における健全化判断比率の状況

地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、次のとおりです。

実質赤字比率	—	（赤字額なし）
連結実質赤字比率	—	（赤字額なし）
実質公債費比率	4.9%	
将来負担比率	17.0%	

(4) 利子補給等に係る債務負担行為の翌年度以降の支出予定額

13,843千円

(5) 繰越事業に係る将来の支出予定額

継続費通次繰越額	2,964千円
繰越明許費繰越額	104,751千円
事故繰越し繰越額	1,220千円
合 計	108,935千円

(6) 純資産における固定資産等形成分及び余剰分（不足分）の内容

① 固定資産等形成分

固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上しています。

② 余剰分（不足分）

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(7) 基礎的財政収支（プライマリー・バランス）

収入総額（※1）	52,664,240千円
地方債発行額	△2,358,136千円
財政調整基金取崩額	△1,762,250千円
支出総額（※2）	△50,738,707千円
地方債償還額	3,165,268千円
財政調整基金積立額	1,671,677千円
基礎的財政収支	2,642,092千円

※1 収入総額とは、資金収支計算書における業務収入、臨時収入、投資活動収入及び財務活動収入の合計額です。

※2 支出総額とは、資金収支計算書における業務支出、臨時支出、投資活動支出及び財務活動支出の合計額です。

(8) 固定資産台帳及び財務書類データの公表について

固定資産台帳は、誌面の都合上、本冊子には掲載していませんが、市ホームページの下記URLにてエクセルデータを公表しています。本冊子掲載の財務書類のエクセルデータと併せてご活用ください。

市ホームページ「朝霞市財務書類4表」URL

<http://www.city.asaka.lg.jp/soshiki/7/reiwa3nenndozaaimushorui4hyou.html>

下のコードからもご覧いただけます。



(9) 数値の一部修正について

令和4年12月作成の財務書類から、一部数値が変更となっている箇所があります。



作成 令和5年3月 朝霞市総務部財政課  
〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1丁目1番1号  
TEL048-463-1111 (代表)  
TEL048-463-3179 (直通)